

2050年にはがんより大きな問題に！「薬剤耐性(AMR)」とは

国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター 国内初の薬剤耐性(AMR)普及啓発用サイトを開設

<http://amr.ncgm.go.jp>

2017年9月15日より開設

国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンター（厚生労働省委託事業）は、国内初の薬剤耐性(AMR)啓発情報サイト(<http://amr.ncgm.go.jp>)を9月15日（金）に開設いたします。

本サイトは、日本政府がまとめた薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン実現の取り組みとして、国際的に脅威となっている薬剤耐性(AMR)対策の普及啓発を目的として開設します。本サイトを通じ、一般生活者および医療従事者へAMR対策や抗菌薬の適正使用の重要性などの情報を発信して参ります。

薬剤耐性(AMR)とは

現在、薬剤耐性によって世界で70万人が死亡、2050年には1000万人が死亡するといわれています。

抗菌薬（抗生物質、抗生剤）は多くの人々の命を救ってきました。しかし、抗菌薬が効きにくい「薬剤耐性」（Antimicrobial Resistance: AMR）をもった細菌が世界的に増えており、大きな問題になっています。このままでは薬剤耐性による死亡者が、2050年には現在がんで死亡している年間820万人を超える可能性が指摘されています。

薬剤耐性菌が増えると、これまでは抗菌薬を使えば治っていた感染症でも、治療が難しくなって重症化しやすくなり、さらには死亡に至る可能性が高まります。このまま増えていけば、現代の医療を継続することが困難となりかねないのです。

日本政府による薬剤耐性(AMR)対策アクションプランとは

薬剤耐性菌が世界的に増加する一方、新たな抗菌薬の開発は減少傾向にあり、国際社会でも大きな課題となっています。日本政府の「国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議」は2016年4月、国内初の薬剤耐性(AMR)対策アクションプランを発表しました。6分野にわたるさまざまな取り組みを通じてAMR対策を進めていきます。

【アクションプラン詳細】<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000120172.html>

薬剤耐性(AMR)対策の6分野と目標（アクションプランより）

分野	目標
1 普及啓発・教育	国民の薬剤耐性に関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進
2 動向調査・監視	薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視し、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適確に把握
3 感染予防・管理	適切な感染予防・管理の実践により、薬剤耐性微生物の拡大を阻止
4 抗微生物剤の適正使用	医療、畜水産等の分野における抗微生物剤の適正な使用を推進
5 研究開発・創薬	薬剤耐性の研究や、薬剤耐性微生物に対する予防・診断・治療手段を確保するための研究開発を推進
6 国際協力	国際的視野で多分野と協働し、薬剤耐性対策を推進

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp

Press Release

国立国際医療研究センター病院
AMR臨床リファレンスセンター



サイト概要

- ▼開設日：2017年9月15日（金）
- ▼名称：薬剤耐性(AMR)啓発情報サイト
- ▼URL：<http://amr.ncgm.go.jp>

【一般の方向け】

感染症の基本 細菌とは（ウイルスとの違い）
抗菌薬とは、治療について

薬剤耐性菌とは

どのように耐性化するのか
薬剤耐性はどのような時に起こるのか

日本の薬剤耐性菌の状況

AMR対策で私達ができること
基本的な感染対策など

【医療従事者向け】

薬剤耐性菌について
歴史・変遷/耐性機序/拡大の要因など

抗菌薬の適正使用

院内感染対策
手指衛生/ワクチン/感染経路別予防策など



薬剤耐性に関するさまざまなメッセージを、わかりやすく動画やインフォグラフィックなどでも発信していきます。

AMR臨床リファレンスセンターについて

AMR臨床リファレンスセンターはAMR対策を推進するため、薬剤耐性(AMR)アクションプランに基づく取り組みを行う目的で厚生労働省委託事業として2017年4月に設立しました。

AMR臨床リファレンスセンターの役割は、AMRに関する情報を広く集め問題を分析し結果をわかりやすくお示しすること、国民の皆さんと医療従事者の方々にAMR対策に必要な知識をお伝えすることです。私たちや子供達が安心して暮らせる環境を作るために、AMRの問題に取り組んでまいります。



AMR臨床リファレンスセンター
センター長 大曲 貴夫

<本件に関する報道関係者からのお問合せ先>

AMR臨床リファレンスセンター広報事務局 担当：小石、佐藤、木下
TEL：03-6427-1627 FAX：03-6730-9713 E-Mail: info@kartz.co.jp